

# 町長メッセージ

春來

桜咲き海輝く松前の春には、自然と歴史の深みが織り成す気高さと美しさがあります。札幌農学校二期生で国際連盟事務次長も務めた新渡戸稲造は著作「武士道」の中で、「武士道はその表徴たる桜花と同じく日本の土地に固有の花である」と喝破しました。日本人に武士道精神が忘れられて久しいと言われますが、武家社会の流れを汲み、城とさくらを戴く松前ほど、この新渡戸の言葉に生命力をもたらす地はないと思うのです。町では5月1日を「さくらの日」と制定しました。「さくらの日」をもつのはおそらく日本で松前だけでしょう。さくらを象徴とし、町民みんながふるさとへの誇りと感謝の思いを共有する日に育てていきたいと思えます。都会にはない空間の広がりや時間の流れ。松前に縁をもったことのありがたさを感じています。

新年度のスタートに向けて

役場は、学校と同じで四月から新しい一年が始まります。私も町長に就任して二年目に入ります。今年度は、将来に向けた土起こしと種まきの年にしたいと思っています。私は今年、皆さんの心の扉をトントンとたたいていきますので、その呼びかけに応えていただきたいと思います。

「公助↓共助↓自助」から「自助↓共助↓公助」へ

やや行政用語になりますが、自分でやることを「自助」、地域社会など共同で取り組むことを「共助」、そして行政が行うことを「公助」という言い方をしま

す。「まずは行政がやるべき（公助）↓行政がやらないものは地域でやる（共助）↓地域でもやらないものは仕方ないから自分でやる（自助）」という思考回路が、私は北海道全体になんとなくあるように感じてきました。しかし、少子高齢化、縮小経済時代に移行した日本の社会では、「まず自分でやる（自助）↓自分で出来ないことは皆でやる（共助）↓皆でも出来ないことは行政が税金でやる（公助）」という形にならないと社会全体がもちません。「松前には、何でも行政」という空気がある」という人もいますが、意外とそうでもなくて、私は、町民の皆さんには「自分たちで出来ることは自分でやる」という「自助」の考え方も強いのではないかと感じることはしばしばあります。

地域の支えあいをどうつくっていくか。ごみの減量化や災害時の対処なども一人ではできません。もちろん行政だけでもできません。大事なのは地域の結束力です。これに向かっていこうとする地域や個人を私は応援していきたく、役場も「お役所仕事への従事者」ではなく「まちの盛り立て役」として、やりがいある仕事を担っていきたいと思います。

松前町長 前田一男

